

# 小児科（新生児科）

## 1. 目的と特徴

全国で30番目の小児総合医療施設に認定されています。本プログラムの専門研修の大きな特色は、小児科専門医取得にとどまらず小児ジェネラリストの育成に重点を置いていることです。小児のケアには広い見識と実戦経験が求められます。わが国の小児専門医療は国際的に高いレベルに達していますが、一方では、総合的にケアできる医師の養成も急務となっています。

八千代医療センターでは、小児をケアできる医師は広い初期対応の経験が必要という考え方を基本としています。やちよ夜間小児急病センター、小児病棟、PICU、総合周産期母子医療センターでの研修すべてが横断的な小児医療の研修という視点で計画されており、小児ジェネラリストを目指す若手医師に魅力的な研修環境を提供します。たとえば、救急外来や小児病棟においては、小児科専門医に加え外科系専門医の指導を受けることができる研修環境を提供したいと考えています。超音波検査を例に挙げると、心臓、腹部、腎臓、血管など、全身の検査を研修医が実践できるような指導を考えています。2021年4月現在、15名の後期臨床研修医が研修中。

## 2. 指導スタッフ

教授	高梨潤一(小児科)
准教授	安川久美(PICU)
講師	武藤順子(小児科)、
准講師	本田隆文(PICU)
助教	佐藤雅彦(NICU)、白戸由理(神経小児科)、平井望(PICU)、松井拓也(PICU)、谷本愛子(NICU)、篠崎啓介(小児科)、塩田恵(神経小児科)、山浦美季(NICU)、阿部勝宏(小児科)、廣瀬翔子(小児科)、下山恭平(小児科)、安部昌宏(小児科)、古舘愛子(NICU)、佐野賢太郎(神経小児科)、室伏佑香(神経小児科)、高瀬菜々子(神経小児科)、安河内悠(小児科)、菱山富之(NICU)、杉山育静(NICU)

## 3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学附属八千代医療センター

研修協力施設：佐久総合病院(長野県)、千葉県こども病院、千葉市立海浜病院、日本赤十字社医療センター、静岡県立こども病院、市立角館総合病院(秋田県)、沖縄県立南部医療センター、成田赤十字病院

## 4. 研修カリキュラム

### A：一般目標

院内併設のやちよ夜間小児急病センターでは、小児の初期救急を小児科がまず担当します。そのなかには小児外科疾患も含まれており、小児科医が窓口となり、緊急度・感染性のトリアージを行い、外科系専門医と連携しながら初期対応を行うことを基本としています。

小児病棟84床(うちPICU10床)には、小児外科、脳神経外科、形成外科疾患など他診療科の病児も入室し、当該診療科の専門医と力を合わせて病児をケアする医療システムを提供しています。診療科を超えた横断的なケアは八千代医療センターの教育方針でもあります。尚、新生児病棟は37床から構成されています。

### B：行動目標

- 1) 日本小児科学会認定小児科専門医の取得
- 2) 総合的にケアできる小児医療者の考え方に立ち、小児外科、脳外科など外科疾患を含む小児救急疾患のトリアージを実践できる
- 3) 心臓蘇生を含む小児救急疾患の初期対応を実践し、処置、検査の優先順位を決定しかつ実践できる
- 4) 医療チームの構成員としての役割を理解し、集中治療が必要な小児重症疾患のチーム医療を実践できる
- 5) 生体情報監視モニターの操作を迅速に実践でき、理学所見、生体情報からの確な病態把握、治療へと反映させることができる
- 6) 経皮的な手技で中心静脈圧ラインが確保できる
- 7) 循環器の専門的理学所見を実践、かつ超音波検査による心機能のスクリーニング、主要な心疾患の診断、治療ができる
- 8) 神経の専門的理学所見、診断、治療ができる
- 9) 頭部外傷を含む脳外科疾患の画像診断、初期対応ができる
- 10) 小児外科疾患の理学所見を実践、かつ小児消化器管疾患の超音波診断ができる
- 11) 小児腎疾患の診断・治療を実践、かつ超音波診断、膀胱造影ができる
- 12) 耳鏡による鼓膜の観察が実施でき、かつ中耳炎の診断ができる
- 13) 主要な新生児疾患の診断・治療を実践、かつ呼吸集中管理ができる
- 14) 日本の小児医療の現状を考え、将来の行動目標をたてることのできる

#### C：年次スケジュール

以下は基本的なスケジュールであり、研修コースの変更は可能。

	研修場所	内 容
1年	小児病棟、小児 ER	救急患者のトリアージ、初期対応。 入院患者の診断・治療
2年	小児病棟、小児 ER、PICU、NICU	救急患者のトリアージ、初期対応。 入院患者の診断・治療
3年	小児病棟、小児 ER、PICU (小児外科、麻酔科、成人 ER、研修 協力施設のオプションあり)	入院患者の診断・治療、小児麻酔 研修医の指導
4年	上記ないし研修協力施設	専門研修の推進
5年	上記ないし研修協力施設	専門研修の推進

#### D：週間スケジュール

- 1) 屋根瓦指導體制：上級医とペアーとなり、病棟担当医となる
- 2) 小児科専門医・外科系専門医が病棟責任医師として指導
- 3) 朝・夕の病棟カンファレンスで、治療方針、安全対策を確認
- 4) 朝・夕、病棟責任医とともに回診、治療方針の確認
- 5) 当直医への申し送り
- 6) 毎週1～2回、やちよ夜間小児急病センターにて、上級医、小児科専門医と救急外来を担当

#### E：評価

指導スタッフ、ならびに関連領域専門指導スタッフから形成的評価を受ける。

## 5. 後期臨床研修修了後の進路

八千代医療センター小児科指導スタッフ。その他希望する職場への推薦。

## 6. 学位

研究論文が掲載された後、教授との協議のもと、学位（論文博士）の申請が可能である。

## 7. 専門医

後期臨床研修4年目に日本小児科学会専門医を取得することを目標とする。

その後、研修を継続することで、日本小児神経学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本周産期学会専門医(新生児)、日本集中治療医学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学科専門医、日本救急医学会専門医、日本感染症学会専門医、日本循環器学会専門医などを取得することが可能である。

## 8. 問い合わせ先

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田 477-96

東京女子医科大学附属八千代医療センター

小児科 高梨潤一、武藤順子

TEL : 047-450-6000

E-mail : jtaka@twmu.ac.jp / muto.ayako@twmu.ac.jp

## 9. 後期研修プログラム

URL : <http://www.twmu.ac.jp/TYMC/recruitment/latter/course/syouni.html>